

千葉地理学会 連載

おもしろ半島 ちばの地理再発見

西船橋駅は県内で利用者数1位の駅で、地名も広く知られています。では「葛飾」と聞くと、どこを思い浮かべるでしょうか。今回はその「西船」と「葛飾」という地名の歴史に触れながら、西船橋駅付近の町歩きに出かけます。

西船橋駅の北口を出ると千葉街道国道14号線が通り、西船駅前郵便局近くに「葛飾小学校開校の地」の碑があります。葛飾小学校は1892年にこの地に開校し、1953年に西船橋駅の開業工事に伴って現在地に移転しました。

1937年に葛飾町が船橋市に合併し、67年に付近の住居表示が西船に変更されました。付近には葛飾中学校、葛飾公民館、葛飾神社など、葛飾と付く場所が多くあります。葛飾の地名は古代から

西船と葛飾



京成西船駅にある葛飾の案内板



葛飾神社とクロマツ

下総国葛飾郡として存在しました。明治には千葉に東葛飾郡、東京に南葛飾郡、埼玉に中葛飾郡、北葛飾郡がありました。その東葛飾郡の中に葛飾村がありました。

千葉街道に戻り、次の宝成寺には栗原藩成瀬家の墓石が営まれました。宝成寺には栗原藩成瀬家の領地でした。宝成寺は7代成瀬正寿（まさむね）の墓石は高さ3メートルあり、その台地上に葛飾神社があります。境内にはこの付近が海岸線であったことをしのばせる栗原藩成瀬家は関ヶ原立派なクロマツの樹があり、船橋市の天然記念物に指定されています。15千石で立藩しますが、889年に付近8カ村が合併し、新しい村名をこの神社の名前から葛飾村としたのです。

合併後も旧地名消えず

宝成寺から京成西船駅へは5分ほどです。この駅は1987年に現駅名に改称されるまでは、京成葛飾駅でした。葛飾という古い地名よりも、現住居表示やJR西船橋駅への乗り換え可能駅という便利さのほうが優先されたということがあります。

しかし、駅の上り線ホームにはこの駅が葛飾駅であったことその由来、そして付近の葛飾に関わる名所案内の説明板が立てられています。そこには「葛飾は万葉集にも或るゆかしい地名であり…」と始まり「ここに古い由緒を持つ葛飾の沿革を記す」と結ばれています。地域の方々の葛飾という地名への愛着を感じます。

（秀明大学・植草学園大学非常勤講師 鎌田正男）